

Associations between the Serum Triglyceride Level and Kidney Outcome in Patients with Chronic Kidney Disease: The Fukuoka Kidney disease Registry Study

関, 麻衣

<https://hdl.handle.net/2324/7362172>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : Copyright©2024 Japan Atherosclerosis Society



氏 名： 関 麻衣

論文名： Associations between the Serum Triglyceride Level and Kidney Outcome in Patients with Chronic Kidney Disease: The Fukuoka Kidney disease Registry Study

(慢性腎臓病患者における血清中性脂肪値と腎予後の関係：福岡腎臓病データベース (FKR) 研究)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

【背景と目的】高中性脂肪血症は慢性腎臓病 (CKD) 発症のリスク因子である。しかし、それがCKDの進行リスクを予測するかどうかは明らかでない。本研究の目的は、保存期CKD患者における血清中性脂肪 (TG) 値と腎不全進行との関連を評価することである。

【方法】福岡腎臓病データベース (FKR) 研究は、保存期CKD患者を対象とした多施設共同、前向きコホート研究である。合計4,100人のCKD患者を5年間追跡した。主要アウトカムはCKD進行であり、これは血清クレアチニンの1.5倍化または末期腎不全の発症と定義した。ベースライン血清TG値 (mg/dL) で患者を4分位 (<87, 87-120, 121-170, >170) にわけ、CKD進行との関連をCox比例ハザードモデルで検討した。

【結果】5年間の観察期間中、1,410人の患者がCKD進行をきたした。多変量調整コックス比例ハザードモデルにおいて、顕性アルブミン尿を共変量として含まないモデルでは、血清TG高値とCKD進行リスクとの間に有意な関連がみられた (Q1に対するQ4のハザード比[HR]1.20; 95%信頼区間[CI] 1.03-1.41; $P=0.022$)、しかし、顕性アルブミン尿を調整因子に加えると有意性は消失した (Q1に対するQ4のHR1.06; 95% CI 0.90-1.24; $P=0.507$)。

【結論】血清TG高値を有する患者は、そうでない患者に比べCKD進行をきたしやすいことが示されたが、血清TG高値が顕性アルブミン尿を反映しているか、または顕性アルブミン尿を介してCKD進行をきたしているかは本研究の結果からは明らかでない。